

(1) 国名：ベトナム

拠点機関：(英文) Vietnam National University Hochiminh City

(和文) ベトナム国家大学・ホーチミン校

コーディネーター (所属部局・職・氏名)：(英文) Center for Vietnamese and Southeast Asian Studies・Director・Tran Dinh LAM

協力機関：(英文) Thai Nguyen University

(和文) タイグエン大学

(2) 国名：ラオス

拠点機関：(英文) National Academy of Politic and Public Administration (NAPPA)

(和文) 国立政治行政学院

コーディネーター (所属部局・職・氏名)：(英文) NAPPA・Vice President・Thongsalith MANGNOMEK

協力機関：(英文) 該当なし

(和文) 該当なし

(3) 国(地域)名：カンボジア

拠点機関：(英文) Royal University of Agriculture (RUA)

(和文) 王立農業大学

コーディネーター (所属部局・職・氏名)：(英文) Faculty of Animal Science and Veterinary Medicine・Lecturer・Sophal CHEAT

協力機関：(英文) 該当なし

(和文) 該当なし

(4) 国(地域)名：タイ

拠点機関：(英文) Khon Kaen University

(和文) コンケン大学

コーディネーター (所属部局・職・氏名)：(英文) Faculty of Humanities and Social Sciences・Associate Professor・Sataporn ROENGTAM

協力機関：(英文) 該当なし

(和文) 該当なし

5. 全期間を通じた研究交流目標

東京大学「日本・アジアに関する教育研究ネットワーク」（以下、ASNET と略記）は、東京大学においてアジアと接点を持つ研究者をつなぐ学際的なネットワークとして2000年に始まり、2010年度から機構化され、分野横断型の学際的なアジア研究者のネットワークの構築と、それに基づく研究の推進を目指してきた。一方、学生向けには全学研究科等横断型教育プログラム「日本・アジア学」を提供している。本事業の目的は、これらの活動を通して ASNET が構築してきた研究者ネットワークと教育プログラムを研究活動に活用することを目的とし、そのために多様な分野の研究者が参加しうる貧困問題という学際的課題に取り組もうとするものである。

貧困問題は、1990年代から発展途上国の開発課題の中心に位置付けられてきた。本事業の対象となるベトナム・カンボジア・ラオスはアセアン諸国内の後発国であり、貧困問題は深刻で、アセアン域内格差の重要な課題となっている。それに対して、タイはアセアンの中では先進国であるが、近年、しばしば政治暴動が報じられているように、国内の格差問題（相対的貧困）は深刻である。これらの国々の貧困を総合的に捉えるためには、経済的理解だけでなく、健康、教育から政治参加までを含む包括的なアプローチが有効である。それは、アマルティア・センがケイパビリティ・アプローチとして提唱している方法であり、国際援助の分野では人間開発アプローチとして主流の考え方となっているものである。

本事業では、日本側コーディネーターとコアメンバーがこれまで実施してきたベトナムおよびタイにおける貧困・地域開発・健康に関する研究によって構築してきたネットワークを基礎として、まだ十分に研究体制の整っていないラオスとカンボジアにそのネットワークを広げ、この地域における貧困研究を促進し、特に日本を含むすべての参加国の若手研究者の育成に努める。さらにラオス・カンボジアにおける学術研究の水準の向上に寄与することを目的とする。

本研究の活動拠点として、日本側コーディネーターが主として活動してきたベトナムの中部高原地方を設定する。同地方の中心都市バンメトートにあるタイグエン大学は東洋文化研究所と交流協定を結んでおり、同大学に「定点観測拠点」を形成する。

6. 平成24年度研究交流目標

「研究協力体制の構築」

国内体制：平成24年度は、昨年までの研究体制を維持する。

国外体制：平成24年度の第1四半期に、池本がベトナムとタイの拠点機関および協力機関を回り、今年度の研究活動・交流活動について説明し、2年目、3年目の研究計画と今年度実施する各国における合同調査（共同研究）と東京で開催する予定のセミナーについて具体的に報告内容・参加者（発表者）について話し合う。

「学術的観点」

貧困問題は1990年代以降、世界の国際開発援助の分野で中心的位置を占めるようになり、人間開発アプローチが主流となっている。ベトナム、ラオス、カンボジアのような低所得国では貧困問題は現在も非常に重要な課題であることは言うまでもない。しかし、一般的に言えば、アジア諸国は経済成長が目覚しく、今でも経済発展に重点が置かれ、貧困問題は経済開発の Spillover 効果によって解決しようとする傾向が強い。しかし、この成長戦略は、Spillover 効果の恩恵を得られない人々の不満を増大させ、タイのように政治暴動を引き起こす。このような問題を回避するには、「貧困」を単に低所得の問題として捉えるのではなく、「最低限満たすべき暮らしの水準」を満たしていないと捉える、人間開発アプローチが不可欠である。それは、健康状態、教育水準といった基礎的な面から、社会参加、文化的な生活、環境までを含む Well-being（福祉）という極めて学際的なアプローチである。このアプローチは、理論的には、アマルティア・センのケイパビリティという概念に基づいており、人間開発アプローチや、日本が主導的に世界に発信している「人間の安全保障」の基礎にある考え方である。しかし、アジアでは、上述のように、経済成長志向が依然として強く、人間開発アプローチへの移行が十分に進んでいない。このアプローチへの期待は、経済分析では捨象されてしまう他分野で強く求められており、日本側コーディネーター（池本）は、その期待に答えるために国際保健、農学、文化人類学などの多くの分野の研究者とともに共同研究を行ってきた。本研究は、それらの研究を基礎に、対象とする4カ国で研究を行なっている研究者を、ASNET というネットワークを利用して動員し、ケイパビリティ・アプローチの視点を普及させるという理論的目的と同時に、貧困の現状を包括的に明らかにするという現実的目的の両方に答えようとするものである。政治的対立や混乱を避け、安定的で持続的な発展のための政策を提言していく上で必要不可欠な作業である。異なるディシプリンを持つ研究者が複数国から参加する共同研究は、アダム・スミスのいう「公平な観察者」の視点を持ち込むことになり、一国研究では見落とされがちな問題を明らかにするとともに、相互の理解を深めることにも貢献することが期待される。

「若手研究者養成」

本事業では、日本と、対象4カ国のそれぞれの若手研究者を双方向的に育成する。その最終的な目標は、（1）日本の研究者が、相手4カ国のかかえる課題について理解を深める

と同時に、その国の研究機関との人的繋がりを形成し、将来にわたって関係を維持できること、(2) 対象国研究者は、日本の持つ知識と技術を習得し、自国の課題に取り組んでいけるようになり、将来も日本と相互交流を持つこと、そして、(3) 日本と対象4カ国を中心とする若手研究者の国際的ネットワークを ASNET を中心に形成し、これが将来にわたって、日本がリーダーシップをとる「ケイパビリティアプローチによる貧困問題研究」のアジアにおける拠点とすることである。これらの目的のために、次の事業を行なう。

1) 海外共同研究：日本人の若手研究者の間には、特に経済学、工学、医学といった分野で、東南アジア諸国へ赴いて調査を実施する機会が限られていたり、あるいは相手国についての理解が不十分であるために、赴くことに後ろ向きになる傾向がしばしば見られた。そこで、本事業を通じて、相手国への理解を深めると同時に、訪問する際のカウンターパートを得てもらう。現地での共同研究に参加することによって、専門技術のみならず、現地事情など、分析に必要な情報を得ることができる。日本の若手研究者が、相手国に赴き、実際の課題を認識することで、新たな研究の着想を得ると同時に、その解決を推進するために不可欠なカウンターパートとの関係を強化することができる。

2) 対象国の研究者の育成：相手4カ国研究機関にとっては、日本の知識や技術を学ぶ機会が、経済的事情だけでなく、人的ネットワークの不足により限られてきた。特に、ラオスやカンボジアでは人材も設備も資金も不足しており、その研究水準は他の国々よりも低く、これらの国々の研究水準を向上させることは、単に貧困問題に留まらず、国家の発展を考える上でも重要な課題であり、またアセアン域内格差の解消のためにも重要な課題である。そこで、本事業ではこれらの国の中で優秀な若手研究者を日本に招き、そこで知識・技術習得と交流の機会を提供する。

3) コーディネーター：上記1)、2)のいずれの場合にも、各国のベテラン研究者が、コーディネーターの役割を担い、必要に応じて支援をする。実施主体である ASNET は、文系・理系を超えて 500 人を超える研究者によって構成されているため、若手研究者のニーズに合わせて、ほとんどどのような分野についても、学術的な指導と技術的な支援を提供することが可能である。

4) 国内セミナー：ASNET は 2010 年 4 月に機構化されて以降、東洋文化研究所と共催でセミナーを毎週開催してきた。これは若手研究者に発表の場を提供するものであり、その報告内容は ASNET のホームページで公開されている。今では広く知られるようになり、外部からの報告希望者も増えてきている。この枠組みを利用し、本事業に参加する若手研究者に研究成果を報告する機会を提供する。

これ以外に、多分野の複数の報告者が同時に研究発表を行ない、学際的に論じ合う場を、月1回程度、定期的で開催し、徹底した議論を行なう。

5) ポスター発表・研究企画コンペ：セミナー等で発表する機会は限られており、若手研究者がもれなく交流に参加できるように、セミナーを実施する場合には、すべての研究者が自分の研究内容を発表できる機会を提供する。そのために、口述発表だけでなく、ポスター発表も組み合わせる。また、セミナー実施期間中に、多分野・多国籍の研究者で構成される複数の班をつくり、それぞれで研究企画のコンペを行う。そこで出された優れたアイデアに対しては、本事業や、東京大学から ASNET に配分される教育研究予算から研究実施への支援も行う。こうした形で、若手研究者に知識と技術と人脈を提供し、交流期間終了後も、相互に交流を続けることができるようにする。

いずれの研究も、若手研究者が中心となって主体的に実施し、ベテラン研究者は適宜指導を行なう予定である。日本の若手研究者は、まず相手国に赴き、人びとの生活の実際と課題を認識することで、新たな研究の着想を得ると同時に、その解決を推進するために不可欠なカウンターパートとの関係を強化する。また、相手国の若手研究者を日本に招き、そこで知識・技術習得と交流の機会を提供する。

7. 平成24年度研究交流成果

(交流を通じての相手国からの貢献及び相手国への貢献を含めてください。)

7-1 研究協力体制の構築状況

国外体制：平成24年の第1-4半期にコーディネーターの池本幸生がタイとベトナムの関係機関をまわり、平成24年度の研究計画と交流活動、今後の共同研究の展開、東京で開催する予定のセミナーについて具体的に報告内容・参加者（発表者）について話し合った。

7-2 学術面の成果

貧困問題は1990年代以降、世界の国際開発援助の分野で中心的位置を占めるようになり、人間開発アプローチが主流となっている。ベトナム、ラオス、カンボジアのような低所得国では貧困問題は現在も非常に重要な課題であることは言うまでもない。そこで本プロジェクトでは、まず交流相手国であるベトナム、ラオス、カンボジア、タイの研究者とそれぞれの国で国際セミナーを実施し、「人間開発アプローチ」に関わる共通認識の構築をはかった。

この人間開発アプローチは、健康状態、教育水準といった基礎的な面から、社会参加、文化的生活、環境までを含む Well-being（福祉）という極めて学際的なアプローチである。そのため、各国でのセミナーでは、さまざまな分野の専門家を招き、それぞれの国が置かれている状況を他国に知ってもらうような工夫も行った。こうしたセミナーやその後に行ったエクスカージョンによって、各国の研究者は「人間開発アプローチ」の理論と現場での実際を理解することができた。

7-3 若手研究者育成

本事業では、日本と対象4カ国のそれぞれの若手研究者を双方向的に育成することも目標のひとつであった。その最終的な目標は、(1)日本の研究者が、相手4カ国のかかえる課題について理解を深めると同時に、その国の研究機関との人的繋がりを形成し、将来にわたって関係を維持できること、(2)対象国研究者は、日本の持つ知識と技術を習得し、自国の課題に取り組んでいけるようになり、将来も日本と相互交流を持つこと、そして、(3)日本と対象4カ国を中心とする若手研究者の国際的ネットワークをASNETを中心形成し、これが将来にわたって、日本がリーダーシップをとる「ケイパビリティアプローチによる貧困問題研究」のアジアにおける拠点とすることである。

これら目標を達成するために平成24年度は、9月にカンボジアで若手研究者の発表を主目的とした国際セミナーを開催した。ここでは、カンボジア、ベトナム、日本、タイから参加した若手研究者が貧困に関わる研究成果を報告した。そして、ベテラン研究者の教員も参加し、総合討論を実施した。また、平成25年1月にはベトナムで国際セミナーを開催し、若手研究者に発表の機会を与えた。両国における国際セミナーの開催後、エクスカージョンも実施し、現場で各国の研究者との話し合いや現地調査を通じて、人的ネットワークを構築させた。また、その内容を日本・アジアに関する教育研究ネットワーク(ASNET)のウェブサイトに掲載した。

7-4 その他(社会貢献や独自の目的等)

ASNETは2010年4月に機構化されて以降、東洋文化研究所と共催でASNETセミナーを毎週開催している。このセミナーは、一般の人びとにも公開しているものであり、若手研究者に発表の場を提供するものでもある。本事業に参加した若手研究者は、そこで得た知識や経験をASNETセミナーで報告する準備を進めている。また、本事業の内容はASNETホームページで公開している。

7-5 今後の課題・問題点

研究計画では、セミナー実施時にポスター発表・研究企画コンペ等を行なうとしていた。しかし、発表者希望者をすべて口頭発表に回したため、ポスター発表は実施できなかった。

7-6 本研究交流事業により発表された論文

平成24年度論文総数 0本

相手国参加研究者との共著 0本

(※ 「本事業名が明記されているもの」を計上・記入してください。)

(※ 詳細は別紙「論文リスト」に記入してください。)

8. 平成24年度研究交流実績状況

8-1 共同研究

—研究課題ごとに作成してください。—

整理番号	R-1	研究開始年度	平成23年度	研究終了年度	平成25年度			
研究課題名	(和文) ケイパビリティ・アプローチによる貧困の学際的研究 (英文) Interdisciplinary Study on Poverty based on Capability Approach							
日本側代表者 氏名・所属・職	(和文) 池本幸生・東京大学日本・アジアに関する教育研究ネットワーク・教授 (英文) Yukio Ikemoto・The University of Tokyo Network for Education and Research for Asia・Professor							
相手国側代表者 氏名・所属・職	ベトナム) Tran Dinh Lam, Vietnam National University Center for Vietnamese and Southeast Asian Studies・Director ラオス) Thongsalith Mangnomek, National Academy of Politic and Public Administration (NAPPA)・Vice President カンボジア) Sanara Hor, Planning and International Cooperation Office・Royal University of Agriculture (RUA)・Deputy Head タイ) Sataporn Roengtam, Faculty of Humanities and Social Sciences, Khon Kaen University・Associate Professor							
交流人数 (※日本側予算によらない交流についても、カッコ書きで記入のこと。)	① 相手国との交流							
	派遣	日本 〈人/人日〉	ベトナム 〈人/人日〉	ラオス 〈人/人日〉	カンボジア 〈人/人日〉	タイ 〈人/人日〉	計 〈人/人日〉	
	先派遣元							
	日本 〈人/人日〉	実施計画	4/12	4/16	4/16	4/12	16/56	
		実績	4/24	0/0	6/49	6/46	16/119	
	ベトナム 〈人/人日〉	実施計画	0/0	5/20	5/20	5/15	15/55	
		実績	0/0	0/0	2/18	0/0	2/18	
	ラオス 〈人/人日〉	実施計画	0/0	2/6	2/8	2/6	6/20	
		実績	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	
	カンボジア 〈人/人日〉	実施計画	0/0	3/9	3/12	3/9	9/30	
		実績	0/0	2/12	0/0	0/0	2/12	
	タイ 〈人/人日〉	実施計画	0/0	4/12	4/16	4/16	12/44	
		実績	0/0	1/6	0/0	0/0	1/6	
	合計 〈人/人日〉	実施計画	0/0	13/39	16/64	15/60	14/42	58/205
		実績	0/0	7/42	0/0	8/67	6/46	121/155
	② 国内での交流	0/0	人/人日					
日本側参加者数	8名 (12-1 日本側参加者リストを参照)							
(ベトナム)側参加者数	3名 (12-2 (ベトナム)国(地域)側参加者リストを参照)							

(ラオス) 側参加者数	
0名	(12-3 (ラオス) 国 (地域) 側参加者リストを参照)
(カンボジア) 側参加者数	
2名	(12-4 (カンボジア) 国 (地域) 側参加者リストを参照)
(タイ) 側参加者数	
2名	(12-5 (タイ) 国 (地域) 側参加者リストを参照)
24年度の 研究交流活動	日本および対象国の研究者がカンボジアおよびベトナムを訪れて共同研究を実施した。具体的には、第1四半期にタイ、第2四半期にカンボジア・タイ、第4四半期にベトナム・タイで調査を実施した。この調査では、各国の参加者がそれぞれの国の実情を相互理解し、実情に適した調査手法を開発し、貧困の包括的特性についての理解を深めた。
24年度の 研究交流活動か ら得られた成果	この調査では、都市部から遠く離れた農村や漁村において貧困や経済発展、健康に関わる調査を共同で実施した。各国の研究者とともにケイパビリティ・アプローチの視点を共有するという目的と同時に、各国の貧困の現状を包括的に明らかにするという目的の双方を達成できた。各国の研究者がこの調査を通じて学んだケイパビリティ・アプローチを自国に持ち帰り、各国の実情に応じた方法論の開発にも着手した。

8-2 セミナー

—実施したセミナーごとに作成してください。—

整理番号	S-1
セミナー名	(和文) 日本学術振興会アジア・アフリカ学術基盤形成事業「ケイパビリティ・アプローチによる貧困の学際的研究」
	(英文) JSPS AA Science Platform Program “Interdisciplinary Study on Poverty based on Capability Approach”
開催期間	平成 24 年 11 月 22 日 ～ 平成 24 年 11 月 27 日 (6 日間)
開催地 (国名、都市名、会場名)	(和文) 日本、東京、東京大学
	(英文) Japan, Tokyo, The Univ. of Tokyo
日本側開催責任者 氏名・所属・職	(和文) 池本幸生・東京大学日本・アジアに関する教育研究ネットワーク/東洋文化研究所・教授
	(英文) Yukio Ikemoto・The Univ. of Tokyo・Network for Education and Research for Asia/Institute for Advanced Studies on Asia・Professor
相手国側開催責任者 氏名・所属・職 (※日本以外で開催の場合)	(英文)

参加者数

派遣先 派遣元	セミナー開催国 (日本)	
日本 〈人／人日〉	A.	5/30
	B.	0/0
	C.	0/0
ベトナム 〈人／人日〉	A.	1/6
	B.	0/0
	C.	0/0
ラオス 〈人／人日〉	A.	1/6
	B.	0/0
	C.	0/0
カンボジア 〈人／人日〉	A.	2/12
	B.	0/0
	C.	0/0
タイ 〈人／人日〉	A.	1/6
	B.	0/0
	C.	0/0
合計 〈人／人日〉	A.	10/60
	B.	0/0
	C.	0/0

A.セミナー経費から旅費を負担

B.共同研究・研究者交流から旅費を負担

C.本事業経費から旅費を負担しない（参加研究者リストに記載されていない研究者は集計しないでください。）

<p>セミナー開催の目的</p>	<p>「アジアの貧困問題へのケイパビリティアプローチ」をテーマにしたセミナーを開催する。相手国からは、各国が抱える課題を報告してもらい、日本からは、そういった課題の解決に関わる最新の知見や技術について報告する。</p> <p>セミナー実施期間中に、多分野・多国籍の研究者で構成される複数の班をつくり、それぞれで研究企画のコンペを行う。そこで出された優れたアイデアに対しては、本事業や、東京大学から ASNET に配分される教育研究予算から研究実施への支援も行う。</p>																		
<p>セミナーの成果</p>	<p>東京大学で開催したセミナーにおいては、対象国の研究者が各国の貧困問題や健康、幸福論、村落の経済発展の状況を報告した。その後、それぞれの研究者がそれぞれの国の実情にあった解決策を議論した。</p> <p>議論では、経済的理解だけでなく、健康、教育から政治参加までを含む包括的なアプローチが有効であることが再確認された。最後に、ここでの共通認識のもと、今後も文献研究とフィールド調査を通じてケイパビリティアプローチの可能性を検討していくことが確認された。また、セミナー実施後にエクスカージョンとしてアジア各国の研究者と東日本大震災の被災地を訪れ、復興の現状や課題、政府の支援、人びとの防災意識などの調査をおこない、各国の研究者と自然災害と防災、貧困に関わる理解を深めた。</p>																		
<p>セミナーの運営組織</p>	<p>今年度のセミナーの運営組織は、東京大学日本・アジアに関する教育研究ネットワーク（ASNET）であった。ASNET は 2010 年 4 月に機構化されて以降、東洋文化研究所と共催でセミナーを毎週開催してきた。これは若手研究者に発表の場を提供するものであり、その報告内容は ASNET のホームページで公開した。</p>																		
<p>開催経費分担内容と金額</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="371 1713 550 1765">日本側</th> <th data-bbox="550 1713 1005 1765">内容</th> <th data-bbox="1005 1713 1367 1765">金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td data-bbox="550 1765 1005 1809">国内旅費</td> <td data-bbox="1005 1765 1367 1809">387,182 円</td> </tr> <tr> <td></td> <td data-bbox="550 1809 1005 1854">外国旅費</td> <td data-bbox="1005 1809 1367 1854">414,071 円</td> </tr> <tr> <td></td> <td data-bbox="550 1854 1005 1899">その他経費</td> <td data-bbox="1005 1854 1367 1899">317,160 円</td> </tr> <tr> <td></td> <td data-bbox="550 1899 1005 1944">外国旅費・謝金等に係る消費税</td> <td data-bbox="1005 1899 1367 1944">31,426 円</td> </tr> <tr> <td></td> <td data-bbox="550 1944 1005 2009">合計</td> <td data-bbox="1005 1944 1367 2009">1,149,839 円</td> </tr> </tbody> </table>	日本側	内容	金額		国内旅費	387,182 円		外国旅費	414,071 円		その他経費	317,160 円		外国旅費・謝金等に係る消費税	31,426 円		合計	1,149,839 円
日本側	内容	金額																	
	国内旅費	387,182 円																	
	外国旅費	414,071 円																	
	その他経費	317,160 円																	
	外国旅費・謝金等に係る消費税	31,426 円																	
	合計	1,149,839 円																	

8-3 研究者交流（共同研究、セミナー以外の交流）

① 相手国との交流

派遣先		日本	ベトナム	ラオス	カンボジア	タイ	計
派遣元		<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>
日本 <人/人日>	実施計画		1/3	0/0	0/0	1/4	2/7
	実績		0/0	0/0	0/0	3/5	3/5
ベトナム <人/人日>	実施計画	0/0		0/0	0/0	0/0	0/0
	実績	0/0		0/0	0/0	0/0	0/0
ラオス <人/人日>	実施計画	0/0	0/0		0/0	0/0	0/0
	実績	0/0	0/0		0/0	0/0	0/0
カンボジア <人/人日>	実施計画	0/0	0/0	0/0		0/0	0/0
	実績	0/0	0/0	0/0		0/0	0/0
タイ <人/人日>	実施計画	0/0	0/0	0/0	0/0		0/0
	実績	0/0	0/0	0/0	0/0		0/0
合計 <人/人日>	実施計画	0/0	1/3	0/0	0/0	1/4	2/7
	実績	0/0	0/0	0/0	0/0	3/5	3/5
② 国内での交流		0/0	人/人日				

所属・職名 派遣者名	派遣・受入先 (国・都市・機関)	派遣期間	用務・目的等
東京大学日本・アジアに関する教育研究ネットワーク・教授・池本幸生	タイ・ブラパ一大学	H24. 5. 7-H24. 5. 8	研究者交流
東京大学・博士課程・Narissara Charoenphan	タイ・ブラパ一大学	H24. 5. 7-H24. 5. 8	研究者交流
東京大学・特任研究員・金 氣 興	タイ・ブラパ一大学	H24. 5. 7-H24. 5. 8	研究者交流

9. 平成24年度研究交流実績総人数・人日数

9-1 相手国との交流実績

遣先 派遣元		派	日本 〈人/人日〉	ベトナム 〈人/人日〉	ラオス 〈人/人日〉	カンボジ ア 〈人/人日〉	タイ 〈人/人日〉	合計 〈人/人日〉
日本 〈人/人日〉	実施計 画			5/15	4/16	4/16	5/16	18/63
	実績			4/24	0/0	6/49	7/58 (2/12)	17/131(2/12)
ベトナム 〈人/人日〉	実施計 画	3/18			5/20	5/20	5/15	18/73
	実績	1/6			0/0	2/18	0/0	3/24
ラオス 〈人/人日〉	実施計 画	1/6	2/6			2/8	2/6	7/26
	実績	1/6	0/0			0/0	0/0	1/6
カンボジア 〈人/人日〉	実施計 画	2/12	3/9	3/12			3/9	11/42
	実績	2/12	2/12	0/0			0/0	4/24
タイ 〈人/人日〉	実施計 画	2/12	4/12	4/16	4/16			14/56
	実績	1/6	1/6	0/0	0/0			2/12
合計 〈人/人日〉	実施計 画	8/48	14/42	16/64	15/60	15/46		68/260
	実績	5/30	7/42	0/0	8/67	7/58 (2/12)		27/197(2/12)

※各国別に、研究者交流・共同研究・セミナーにて交流した人数・人日数を記載してください。(なお、記入の仕方の詳細については「記入上の注意」を参考にしてください。)

※日本側予算によらない交流についても、カッコ書きで記入してください。(合計欄は()をのぞいた人数・人日数としてください。)

9-2 国内での交流実績

実施計画	実 績
1 / 6 〈人/人日〉	0 / 0 〈人/人日〉

10. 平成24年度経費使用総額

(単位 円)

	経費内訳	金額	備考
研究交流経費	国内旅費	445,276	
	外国旅費	3,771,859	
	謝金	0	
	備品・消耗品購入費	0	
	その他経費	597,310	
	外国旅費・謝金等に 係る消費税	185,555	
	計	5,000,000	
委託手数料		500,000	
合 計		5,500,000	

11. 四半期毎の経費使用額及び交流実績

	経費使用額 (円)	交流人数<人/人日>
第1四半期	301,156	3/21
第2四半期	2,187,608	10/81
第3四半期	1,149,839	5/30
第4四半期	1,361,397	9/65
計	5,000,000	27/197